



伝統的いぶし瓦の工法でインテリア製品製造

伝統的工芸品いぶし瓦の鬼瓦・棟瓦製造販売業。伝統的ないぶし瓦の工法を使用したエクステリア製品・インテリア装飾品(花器、プランター)の開発、販売と、水産加工業

業況等の動向について

異業種に参入した動機や経緯、きっかけ

動機としては同業の工業組合で経済産業省の補助金を使用し、商工会、県のコンサルタントのアドバイスのもと新分野開拓を検討していた。他の会員が参入しなかったため、当社が参入することになった。伝統的ないぶし瓦の工法を用いた製品の開発に取り組むことになる。その他に食品業界へ展開を検討していたところ、知人(現・専務)が営んでいた水産加工会社と業務提携することになった。

参入して最も成果のあったこと及び最も困難だったこと

成果としてあげられることは、新しい市場ができつつあることと、困難だったことは販売が弱いことがあげられる。

業況等について

本業のいぶし瓦の鬼瓦・棟瓦の製造販売状況は不調である。住宅販売戸数の減少と、住宅様式と流通形式の変化、屋根瓦の業界はハウスメーカーが中心のためいぶし瓦のように種類も多く、瓦を葺く技術も難しい製品を好まないことから売上を伸ばすのは非常に厳しい。新事業分野のいぶし瓦の工法を使用したエクステリア製品・インテリア装飾品(花器、プランター)の開発、販売においては、売上高は1,000万円、売上高構成比は7%とやや不調である。機械化を検討していたが、伝統的ないぶし瓦の風合いが表現できず断念。一つ一つ手造りのためコストダウンができず厳しい状況。加えて、インテリア装飾は嗜好品のため景気が影響し、売上は伸び悩んでいる。

一方、水産加工(ワカメの加工販売)は、景気に大きく影響を受けることなく、順調である。

今後の展望・見通し

今後の展望としては、会社全体の売上15%にすること。

メリット・デメリット

メリットとしては従来になかった市場が開拓できたこと。
デメリットは特にない。

行政の支援について

異業種参入に際し、役に立った行政、支援機関の制度
平成19年度 中小企業基盤整備機構 地域資源物づくり助成金 (兵庫産業活性化センター)

異業種参入に際し、行政に対して望む支援

補助金の使用用途に関する規制が厳しいので緩和してほしい。

一商品に対しての支援が短いので、新商品が市場に根付くまで長期的な支援が必要である。

会社概要

設立:昭和51年9月

資本金:5,910万円

従業員数:10名

URL: <http://www.tatsumi-oni.co.jp>